

## 【登園許可証明書を必要とする主な感染症】

| 感染症名  | 感染経路                  | 潜伏期間   | 主症状   | 登園の目安  | その他                                      |
|---|-----------------------|--------|---|--|--|
| 麻疹<br>(はしか)                                       | 空気感染                  | 10～12日 | はじめの2～3日は熱・咳・鼻水・目ヤニなどの風邪症状。一度熱が下がり再び高熱が出ると同時に全身に発疹・頬の内側にも白い斑点ができる。発疹出現後も4～5日高熱が続く。                  | 解熱後3日を経過してから。  | 中耳炎7～9%、肺炎6%、脳炎0.1%に合併症がみられる。数百人に1人死亡。   |
| 風疹<br>(三日ばしか)                                     | 空気感染                  | 14～21日 | 発熱と同時に全身にかゆみを伴うピンク色の発疹が出現。首・耳の下・わきの下のリンパ腺が腫れる。のどの痛み・目の充血。発疹・発熱は1～4日ほどで治まる。                          | 発疹が消失してから。   | 妊娠初期にかかると、先天性疾患(心・眼・聴力・発達遅延)などの胎児への影響あり。 |
| 水疱<br>(みずぼうそう)                                    | 空気感染                  | 10～21日 | 発熱(微熱・出ないこともある)全身に米粒ほどの赤く盛り上がった発疹が現れ増えていく。やがてかゆみを伴った水疱に変わる。3～4日後に黒い瘡蓋になって治癒。                        | すべての発疹が痂皮化(かさぶた)してから。                                    | とびひと併発した園児がおり、見極めが困難だったことがある。            |
| 流行性耳下腺炎<br>(おたふくかぜ)                               | 飛沫感染                  | 14～24日 | 両方・又は片側だけの耳下腺、顎下腺の腫れと痛み。1週間前後で腫れは引く。発熱は3～4日で落ち着く。   | 耳下腺などの腫脹が出現してから5日を経過し、かつ全身状態が良好になってから。                   | 耳下腺の腫脹がいつからだったのか判断しにくい。                  |
| 結核  | 空気感染                  | さまざま   | 長期間の咳・微熱が続く。顔色の悪さが目立つ。食欲減退。体重減少。  | 感染の恐れがないと医師が認めてから。                                       | 重い後遺症を残す可能性がある。                          |
| 咽頭結膜熱<br>(プール熱)<br><small>※アデノウイルス 下記確認</small>   | 飛沫感染                  | 5～7日   | 39℃前後の高熱。のどの痛み・咳。眼の充血・目ヤニ、結膜炎症状。腹痛、下痢、吐き気、頭痛。   | 主症状が消え、2日経過してから。   | 症状が出ているうちは感染力が強い。                        |
| 流行性角結膜炎<br>(はやり目)<br><small>※アデノウイルス 下記確認</small> | 接触感染                  | 7日前後   | 瞼の裏側の結膜・角膜にまで及び白目が真っ赤に充血して、痛み、涙が出る。瞼の裏側に小さなブツブツができ違和感がある。耳前リンパ節の腫れ、発熱、下痢。                           | 感染力が非常に強いいため、結膜炎の症状が消失してから。                              | 手を介して感染。                                 |
| 百日咳   | 飛沫感染                  | 7～14日  | 微熱。くしゃみ、咳、鼻水。1～2週間過ぎると咳が激しくなる。咳き込んだ後に「ヒュー」と笛を吹くようなおとを立てて息を吸い込み顔が赤くなる。夜間に悪化することが多い。3～4週間で咳が少しずつ軽くなる。 | 特有の咳が消失するまで。又は、5日間の適正な抗生物質による治療が終了してから。                  |  |
| 腸管出血性大腸菌<br>(O157等)                               | 汚染された食肉や加工品・飲料水を飲食で感染 | 3～8日   | 激しい腹痛・嘔吐。水様便から始まり血便になる。下痢による脱水症状。発熱は軽度。   | 症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48時間空けて連続2回の検便によっていずれも菌陰性が確認されてから。 |  |

※アデノウイルス感染症は、必ず診断名を確認。次に当園許可証を必要とするケース、必要としないケースを確認。

【要】①咽頭結膜熱(プール熱)、②流行性角結膜炎(はやり目) 【不要】③感染性胃腸炎、④風邪症状

## 【登園許可証明書を必要としない主な感染症】

| 感染症名                                   | 感染経路            | 潜伏期間                         | 主症状  | 登園の目安                           | その他                       |
|--|-----------------|------------------------------|--|---------------------------------|---------------------------|
| 溶連菌感染症                                 | 飛沫感染            | 2～5日                         | 突然の高熱。のどの痛み・腫れ。嘔吐・腹痛、頭痛。1～2日で赤く小さな発疹が首から胸に広がる。舌にいちごのようなブツブツができる。   | 抗菌薬内服後24～48時間経過していること。          | 合併症や再発の恐れあり。約1か月後の尿検査を推奨。 |
| マイコプラズマ肺炎                              | 飛沫感染            | 14～21日                       | 鼻水から始まり、39℃前後の発熱が続く。乾いた咳が長期間続く。  | 発熱や激しい咳が治まっていること。               |                           |
| 手足口病                                   | 飛沫感染            | 3～5日                         | 手掌、足底、口腔内に痛みを伴う水疱ができる。発熱(発熱しないこともある)下痢・嘔吐を伴うこともある。   | 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること。 | まれに脳炎を伴って重症化することもある。      |
| 感染性紅斑<br>(りんご病)                        | 飛沫感染            | 14～24日                       | 左右の頬が林檎のように赤く腫れる。ほてり・かゆみ・痛みがでることもある。(1～2週間ほどで消える。この状態になったとき感染力はない。)肩や手足にもレース状の赤い発疹が広がることもある。発熱はあまりないが、咳・鼻水などの風邪症状を伴うこともある。 | 全身状態がいいこと。                      | 妊婦が感染すると、流産の危険性がある。       |
| 感染性胃腸炎<br>(ノロ・ロタ・アデノ)<br>※アデノウイルス 下記確認 | 接触感染            | ノロ1～2日<br>ロタ1～3日<br>アデノ3～10日 | ノロ:嘔吐・下痢・発熱。<br>ロタ:発熱。1日に数回酸っぱいにおいの黄色がかった白い水様便。下痢は1週間ほど続く。嘔吐は数日で治まる。<br>アデノ:水様性の下痢(1～2週間続くこともある。)嘔吐・腹痛・発熱・のどの痛み。           | 嘔吐・下痢等の症状が治まり普段の食事が摂れていること。     |                           |
| ヘルパンギーナ                                | 飛沫感染            | 2～7日                         | 突然39℃前後の高熱。のどの痛み。扁桃腺の上に水膨れがたくさんでき、2～3日経つと潰瘍になる。熱は1～3日ほどで下がるが口腔内の水疱が治るまでには1週間ほどかかる。   | 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること。 |                           |
| RSウイルス感染症                              | 接触感染<br>飛沫感染    | 4～6日                         | 鼻水や咳から始まり、ヒューヒューという喘鳴があるなどの呼吸器症状が強くなる。熱は出ないこともある。  | 呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと。            | 手を介して感染。                  |
| 带状疱疹                                   | 空気感染            | 10～21日                       | 抵抗力や免疫力が低下している時に胸や背中など神経の流れに沿って帯状に発疹が出る。子供はあまりいたがらないこともある。水痘罹患済みで何年か経って再発したのが带状疱疹。带状疱疹から水疱瘡は感染する。                          | すべての発疹が痂痂化(かさぶた)してから。           |                           |
| 突発性発疹                                  | 成人の唾液中のウイルスで感染。 | 7～14日                        | 突然高熱が3日ほど下がらない。解熱後、腹部を中心にかゆみのない発疹が出る。このころはすでに回復期。  | 解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと。              |                           |

※アデノウイルス感染症は、必ず診断名を確認。次に当園許可証を必要とするケース、必要としないケースを確認。

【要】①咽頭結膜熱(プール熱)、②流行性角結膜炎(はやり目) 【不要】③感染性胃腸炎、④風邪症状